

平成29年度学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校)

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する、伝統を重んじ、活力に満ちた進学校
--------	--

重点目標	1 高い志を育成し、第一志望の進路を実現させるため、学力向上に向けた組織的な取組を実践する。 2 本校の特色や魅力を効果的に広報するとともに、県内小中学生と積極的な交流を図る。 3 伝統に培われた教育活動全般(学業・部活動・学校行事)を通じて、厚みある人間力をもったリーダーに育てる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	<p>○3年間を見通した進学指導の取組の成果が上がってきており、平成28年度は国立大学合格者が117名(現役64名)。「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」指定校として、多角的・総合的な指導を通じて更なる進学実績の向上が期待されている。</p> <p>○昨年度より進学型単位制を導入している。また、今年度より第2期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され、より高度な教育活動を進められるよう取組を進める。</p>	○指導力の向上と、生徒の主体的な学習を促す授業改善の推進	①単位制と学年制が混在しているが、年次団や教科担当者と連携を図り、きめ細かい学習ガイダンスを行うことで自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ②生徒自らが考え、学ぶ授業を展開し、授業を更に活性化させる。 ③生徒の主体的な学習を促す授業改善のため、教員同士による授業公開の実施	①平日に学年+1時間以上学習する生徒が各学年全体の7割を超えたか(早朝、放課後含む)。 ②「生徒による授業アンケート」等で授業中に発言・質問をする生徒の割合が増えたか。 ③授業公開期間中、他の授業を見学した教員の割合	授業改善は進みつつあるが、生徒の学習習慣定着には課題がある。 ①1年 29.7%→21.8%、2年 9.7%→15.4%、3年 22.7%→70.9%だった。(5月→12月) ②12月のアンケートでは45.4%(H28 51.2%)だった。真面目に受けているがまだまだ受身の生徒が多い。 ③年間2回互見授業期間を実施した。	B 【課題】 ○低年次における学習習慣の定着および入試改革等への対応 【改善】 ○入学時から学習習慣定着への指導を行い、進路実現につなげる。 ○高大接続を含めた教育改革に関する情報を全職員で共有し、取組を進める。
		○高い志を育成し、第一志望を実現させる進路指導の充実	①1年次の講演会・集会、キャリア教育等を通じて高い志を育成し、3年間を見通した組織的な進路指導により高い進路希望を維持させる。 ②新たに正規指定されたSSH事業で全校生徒へ働きかけるとともに、骨太リーダー育成事業や国際交流事業等への参加を勧め、学校外の力も活用し生徒の意欲を高めていく。	①現役合格者数が国立大学70名、うち難関国立大学10名を超えたか。 ②事業参加生徒の意識、意欲についてのアンケート項目の肯定的意見の割合が昨年より上昇したか。	第一志望の実現に向けて引き続き進路指導の充実が必要 ①国立大 114 (現役 57)名の合格(3月23日現在) ②SSHの取組に参加したことで科学技術に対する興味・関心・意欲が増した生徒60%(81%)、科学技術に関する学習に意欲が増した生徒54%(71%)。骨太リーダー育成事業に係る取組(被災地訪問、国際交流事業)に参加した生徒が全校生徒に報告を実施	
2	<p>○ホームページにおいて「赤薨」、「旬熊」を中心に教育活動の様子を発信し、総アクセス件数が90,000件超であった。多様な情報ネットワークを利用し本校の良さを更に積極的にPRする。部活動については最新情報を随時掲載する必要がある。</p> <p>○保護者や小学校・中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高めるとともに、本校で学びたいと強く思う中学生を増やす。</p>	○積極的かつ効果的な広聴広報活動	①画像等の情報を迅速にHPに更新するとともに、部活動の更新を含め内容の充実をさらに図る。 ②携帯メール一斉送信を有効活用する。 ③マスコミ等へ本校の取組を積極的に情報提供する。	①ホームページの総アクセス件数が10万件を超えたか。 ②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。 ③マスコミ等で何件本校が取り上げられたか。	HPや一斉メールを広報および情報伝達ツールとして十分活用できた。 ①管理職によるブログ「赤薨」「旬熊」を中心に87,419件アクセス数があった。 ②定期的に月1回、緊急の際は随時一斉メールを送信した。 ③埼玉新聞を中心に12件取り上げられた。	A 【課題】 ○HPや一斉メール以外の手段でも真の熊谷高校の「良さ」を伝える広聴広報活動の推進 【改善】 ○必要に応じて県政ニュース等を活用する。 ○学校説明会や部活動体験等に在校生が関わることにより、効果的な生徒募集を更に推進する。 ○HP上で部活動の活動状況更新を更に促進する。
		○地域社会との連携推進	①ボランティアを含め、地域行事への参加・協力や小中学校との連携をさらに推進する。 ②学校説明会及び中学生対象の部活動体験を複数回実施し、生徒同士の交流を図る。	①昨年以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。 ②学校説明会への参加者数が増えたか。部活動体験に多くの中学生が参加したか。	概ね良好である。 ①音楽部・吹奏楽部が石原小、大原中等と交流、応援団も大原中や地域のイベントにも参加、有志が石原小、大原中、富士見中の夏休み学習ボランティアに参加。 ②第1回270組、第2回237組、第3回130組が参加。中学1・2年生対象32組、部活動体験は143組が参加。	
3	<p>○「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」の校風が学校生活に活力を与え、人間力の形成と向上につながっている。生徒同士の学びあいの場、話し合いや発表の場、活躍の場をさらに増やし、リーダーとしてバランス感覚のある生徒の育成が期待されている。</p>	○「学力」「体力」「良識」の調和のとれた、将来、日本の社会をリードする生徒の育成	①「学業・部活動・学校行事の鼎立」を踏まえ、学業を第一義に部活動や行事の更なる充実に取り組む。 ②社会で活躍する人材を招き、「真のリーダーとは何か」を考えさせる。 ③図書館開館時間の延長、放課後の教室開放等により「学ぶ集団づくり」を推進する。	①生徒が主体的に学校行事や生徒集会を運営したか。全国大会、関東大会に10部以上出場できたか。 ②事後の感想やアンケート結果等で、社会で貢献しようとする志を持つ生徒が増えたか。 ③放課後に図書館や教室で学習する生徒の数が増えたか。	生徒が「三本の矢(学業・部活動・学校行事)」にしっかり取り組んだ。 ①インターハイ及び国体に3部ずつ、関東大会に5部が出場。 ②「生き生き仕事人」のアンケート結果より、高校時代に何をすべきかわかった32%(52%)、将来を考えるきっかけとなった50%(36%)。 ③放課後の図書館利用者数1学期平均71名、2学期平均77名、3学期平均54名、全体で72名(72名)。	B 【課題】 ○熊高の「三本の矢」の真のあり方を追求 【改善】 ○図書館延長と放課後の教室利用を効果的にを行い、切磋する「学ぶ集団づくり」を推進する。 ○「生き生き仕事人」以外の機会でも活躍するOBの人材を活用し、社会で通用する人間を育成する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・学習習慣の定着は、あまり長時間にこだわらず、短時間でも毎日勉強することが肝要ではないか。</p> <p>・教員からだけでなく、生徒同士で勉強を促すような声掛け等雰囲気作りも大切ではないか。</p> <p>・教員が一方向的に講じるだけでなく、生徒に考えさせる時間を設けるなど工夫されているのが素晴らしい。</p> <p>・新入生に対して、「熊高での勉強の仕方」等最初の教育が重要であると考えられる。</p> <p>・SSHの取組、骨太リーダー育成の取組を最大限に活用することができるのは恵まれている。</p>	
<p>・中学生にも各高校のHPは見るように指導している。HPの内容を充実させることは大切である。</p> <p>・HPのブログだけでなく、ツイッターやフェイスブック等SNSによるモバイル型の情報発信も充実させたらどうか。</p> <p>・小中学校や地域との交流など多忙の中ではあるがよく頑張っている。</p> <p>・交流する際、大きな声で明るいあいさつは重要である。手軽にできるイメージアップでもある。</p> <p>・地域社会等への交流にもっと多くの生徒が参加して欲しい。</p>	
<p>・「三本の矢」にしっかり取り組むということは大切で、将来は5本も10本も両立を求められる。そのためには熊高の3年間で強い胆力を身に付けてほしい。</p> <p>・全日制と定時制との交流がもっと活発になると良いと考える。そうすることで全日制の生徒の視野も広がると考える。</p> <p>・「生き生き仕事人」も良い取組であるが、もっと社会人と交流する機会があると良いと思う。</p> <p>・「自由と自治」は将来のリーダーを育てるうえでふさわしいと思うが、「自由」の本来の意味を正しく理解していない生徒もいるのではないか。</p>	